

アクア フォレスタ・ルネ稲毛

No. 20-007-2010更新
新築
集合住宅

発注者	総合地所 株式会社 株式会社 長谷工コーポレーション	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン B. 省エネ・省CO2技術 C. 各種制度活用 D. 評価技術/FB			
設計・監理	エンジニアリング事業部	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	株式会社 長谷工コーポレーション	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

住民参加による生き物空間のあるマンション中庭

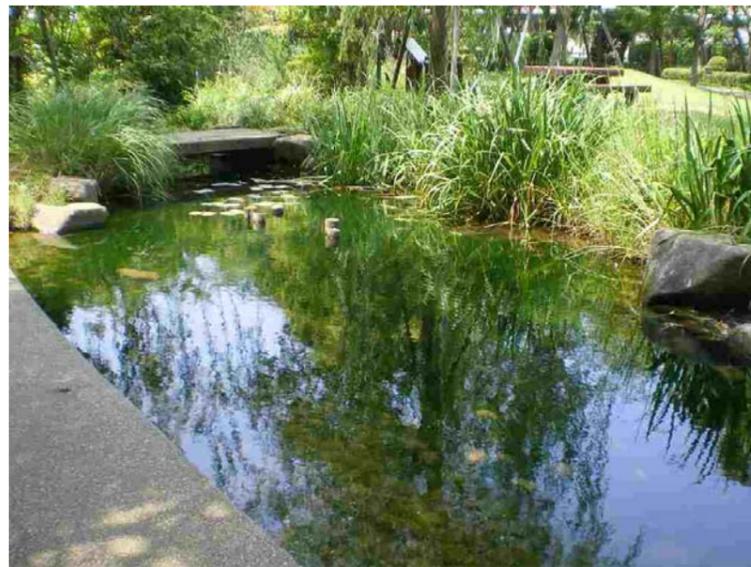
都市化により失われた身近な生き物空間の再生
アクアフォレスタ・ルネ稲毛は都市化の進んだ千葉市郊外にある。かつて、稲毛周辺にも田園や雑木林があり、そこに住むメダカ、トンボ、チョウなどの小動物は身近な存在であった。これら急速に失われつつある生き物空間を中庭の計画に取り込む事で、身近に自然があるランドスケープデザインとした。

子供たちにとって身近な生き物空間（自然池）の重要性
敷地の近くに残る用水路は、コンクリートで固められた構造物になり、子供たちにとって危険で立ち入り困難な場所になっており、容易に生き物の自然な姿に触れることができない。中庭に身近に生き物と触れ合える場所を提供することは、子供達の環境教育にとって非常に重要な意味を持つと考える。

住民相互の交流の空間としての役割
自然池は生き物と住民の触れ合い場であると共に、池の観察や管理などを通じて、住民相互の交流の場にもなる。集合住宅は見る庭としての機能だけでなく、使う庭、参加する庭へと位置づけられた。



竣工時の自然池の様子。竣工当初は植物が成長しておらず、生き物の生息空間のイメージには程遠かった。（1999年3月撮影）



竣工後8年目の自然池上流部（上）と下流部（下）の様子。周囲の樹木や水草が繁茂し、構造的に生き物が住みやすく多様性のある空間となっている。（2007年7月撮影）

建物データ	
所在地	千葉県千葉市
竣工年	1999年
敷地面積	20,339.35㎡
延床面積	42,983.71㎡
構造	SRC造, 1部RC造
階数	地上14階

住民参加による計画、施工、管理

発注者の発案で自然池と中庭の花壇づくりの計画、施工、管理に住民参加方式が採用された。計画から施工、管理の段階でワークショップが数回開催され、池のデザイン提案、水草の植栽などに住民の方々の協力を得た。竣工後は、池を自主的に管理運営してゆく組織が作られ、池のメンテナンスなどに住民の方々が継続的に関わっている。自然池の管理は一般の造園樹木の管理と異なり、池の汚れ具合や生き物の生息状況を細やかに観察しながら行う必要があり、見守りの組織があることは生き物空間の継続的な維持管理にとって非常に重要である。



自然池でメダカ放流する子供達

設計担当者

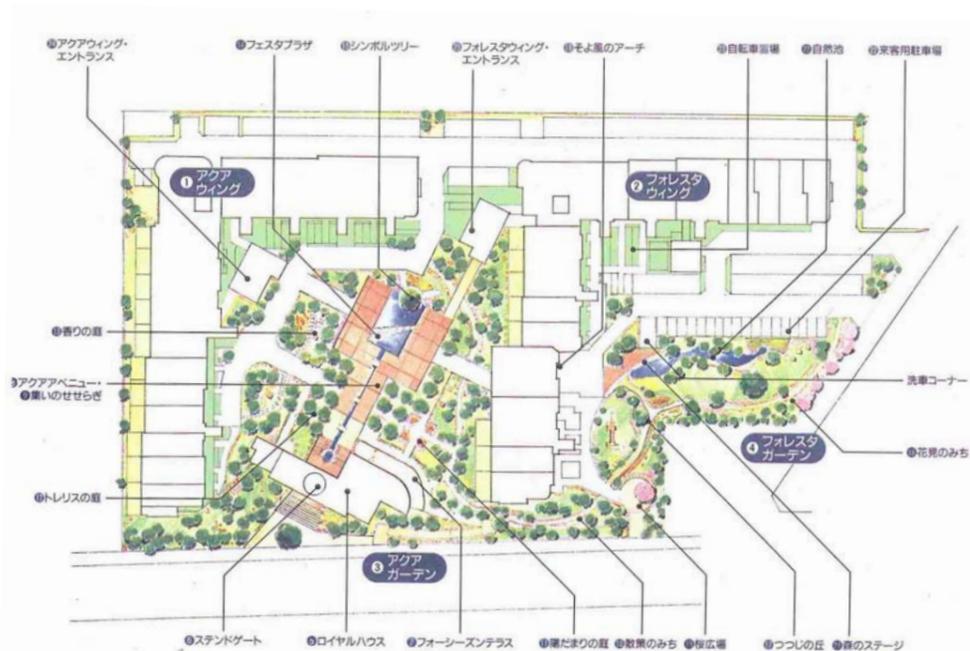
ランドスケープ: 野澤雄一/建築: 渡辺亘/インテリア: 永井幹子
構造: 日高雅樹/電気: 富岡智明/衛生: 山鹿英雄
監理: 茂木計佐夫



自然池に放流するメダカ取りは、竣工後近郊のトンボ池に住民有志（お父さん方や子供たち）が参加して実施された。（1999年5月撮影）



池で孵化する
ギンヤンマ



敷地計画図（自然池はフォレスタガーデン内に位置する。花見のみちの桜並木は既存樹保全により実現した。）

主要な採用技術（CASBEE準拠）

- Q3. 1. 生物環境の保全と創出（ピオトープの再生：自然池を設け、トンボ・メダカ等の小動物の生息空間の創出。）
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮（地域に親しまれてきたサクラ並木を保全し、緑化計画に生かした。）
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮（かつて身近に見られ、子供達の自然遊びの場であった水辺空間の再生。）
- Z 自然池（ピオトープ）の継続的な管理と住民の環境教育の一環として設計、施工、管理時に住民参加方式を採用。